

4K・8Kロードマップに関するフォローアップ会合 第二次中間報告 概要

2014年（実績）	
衛星	・ 124/128度CSにおいて、4 K 試験放送開始（6月）
ケーブルテレビ （注1）	・ 4 K 試験放送開始（6月） ・ 4 K VODトライアル開始 <u>（11月）</u>
IPTV等（注2）	・ 4 K VODトライアル開始（4月） ・ 4 K 試験放送開始（6月） ・ 4 K VOD実用サービス開始（10月）
2015年（実績を含む）	
衛星	・ 124/128度CSにおいて、4 K 実用放送開始（3月）
ケーブルテレビ	・ <u>4 K VOD実用サービス開始（5月）</u> ・ 4 K 実用放送開始 <u>（12月）</u>
IPTV等	・ 4 K 実用放送開始（RF方式） <u>（4月）</u> ・ 4 K 実用放送開始（IP方式） <u>（12月）</u>
2016年（リオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピックの開催年）	
衛星	・ 衛星セーフティネット終了後の空き周波数帯域（BS）において4 K 試験放送（最大3チャンネル）及び8 K 試験放送（1チャンネル）を <u>NHK及びNHK以外の基幹放送事業者の2者で開始（4 Kと8 Kを時分割で放送）</u>
ケーブルテレビ	・ 8 Kに向けた実験的取組開始
IPTV等	・ 8 Kに向けた実験的取組開始
2017年	
衛星	・ <u>110度CS左旋において4 K 試験放送開始</u>

（下線部分は改訂部分）

4K・8Kロードマップに関するフォローアップ会合 第二次中間報告 概要

2018年	
衛星	<ul style="list-style-type: none"> ・ BS右旋及び110度C S左旋において4 K 実用放送開始 ・ BS左旋において4 K 及び8 K の実用放送開始
2020年頃	
衛星	<ul style="list-style-type: none"> ・ BS左旋において4 K 及び8 K 実用放送拡充 (トランスポンダの追加割当) ・ 110度C S左旋において4 K 実用放送拡充 (トランスポンダの追加割当)
<p>2020年 (2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催年)</p> <p>《2020年の目指す姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の数多くの中継が4 K・8 Kで放送されている。また、全国各地におけるパブリックビューイングにより、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の感動が会場のみでなく全国で共有されている。</u> ・ 4 K・8 K放送が普及し、多くの視聴者が市販のテレビで4 K・8 K番組を楽しんでいる。 	
<p>2025年頃のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>4 K 及び8 K 実用放送のための伝送路として位置付けられたBS左旋及び110度C S左旋において多様な実用放送実現</u> ・ 右旋の受信環境と同程度に左旋の受信環境の整備が進捗 	

(下線部分は改訂部分)

(注1) ケーブルテレビ事業者がIP方式で行う放送は「ケーブルテレビ」に分類することとする。

(注2) 「ケーブルテレビ」以外の有線一般放送は「IPTV等」に分類することとする。

(注3) BS右旋での4K実用放送については、4K及び8K試験放送に使用する1トランスポンダ(BS17ch)を含め2018年時点に使用可能なトランスポンダにより実施する。この際、周波数使用状況、技術進展、参入希望等を踏まえ、使用可能なトランスポンダ数を超えるトランスポンダ数が必要となる場合には、BS17chを含め2トランスポンダを目指して拡張し、BS右旋の帯域再編により必要とされるトランスポンダを確保する。

(注4) BS左旋及び110度CS左旋については、その中間周波数による既存無線局との干渉についての検証状況、技術進展、参入希望等を踏まえ、2018年又は2020年のそれぞれの時点において使用可能なトランスポンダにより、4K及び8K実用放送を実施する。

(注5) 2020年頃のBS左旋における4K及び8K実用放送拡充のうち8K実用放送拡充については、受信機の普及、技術進展、参入希望等を踏まえ、検討する。